



鏡川流域生物多様性保全事業



～鏡川を介して森から海へとつながる環境と生きものの多様性～

鏡川は、流域全体が一つの市域に包含されている全国的にも珍しい川で、平成の名水百選にも選定されています。高知市では、四国山地や黒潮の影響を受けた特有の気候、地形、地質に育まれた植物や魚類、両生類、昆虫、鳥類などが多様に生息しています。鏡川流域を中心に、市域の生物多様性の保全に向けて、鏡川清流保全基本計画に基づく取組を実施しています。

取組内容① スマホアプリを活用した市民参加型生物多様性調査

鏡川流域を中心とした市域における生物多様性の定量化や保全対策に向けて、動植物の生息・生育状況の調査を市民参加型で実施しており、多くの市民の参加を得られるよう、動植物の種を容易に同定できるスマホアプリ「Biome (バイオーム)」を活用しています。

DX化の推進により、市域の生物多様性を把握し、可視化するとともに、市民の日常的な自然との関わりを拡げていくよう、取り組んでいます。



鏡川流域で発見した
動植物の種数
(令和7年度8月)

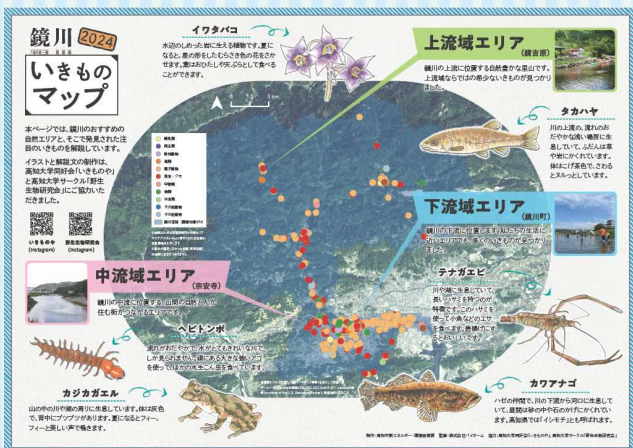
479種

取組内容② 鏡川清流保全環境調査

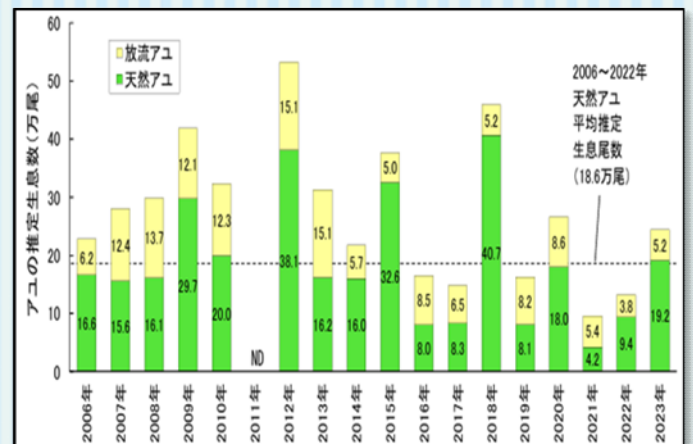
「アユの群れなす鏡川」の実現に向けた対策を検討するための基礎資料として、鏡川の上・中・下流において、アユの遡上・産卵場調査を実施し、生息状況や河川の状況などを継続的に把握しています。



高知大学生の協力を得て作成した鏡川いきものマップ



鏡川清流保全環境調査により確認された天然アユの遡上数



本事業は、高知市が策定した、鏡川清流保全基本計画に基づいて行っています。この計画は「鏡川を森と海をつなぐ環境の基本軸」とし、100年後も残したい鏡川と流域の姿をイメージして取り組んでいます。